

## 2025年度第1回 開志専門職大学 事業創造学部 教育課程連携協議会 議事録

1. 日 時：2025年9月26日（金）14：00～16：00
2. 会 場：開志専門職大学 紫竹山キャンパス 7階会議室  
（オンラインでの参加者は Teams にて参加）
3. 出席者：向正道 委員長、荒井正幸 委員、唐木宏一 委員、武田修美 委員（オンライン参加）  
田中豊 委員（オンライン参加）、早川正茂 委員、三ヶ月亘彦 委員（五十音順）  
オブザーバー参加：星和樹先生、小川元也先生（オンライン参加）、明珍儀隆先生  
事務局：遠田孝之 学務部長、阿部朋子 事業創造学部 学務課課長、今井泰子 学務課職員

### 4. 議 事：

#### 【報告】

1. 2025年度 教育課程に関する報告と質疑応答
  - 1) 教育課程・・・(30分)
    - ・2026年度カリキュラム・授業関連検討事項
    - ・臨地実務実習状況（2025年度前期）
  - 2) 学生状況（2025年度9月末時点）・・・(15分)
  - 3) 就職内々定状況報告（2025年度9月末時点）・・・(15分)
  - 4) 学生募集状況（2025年度9月末時点）・・・(20分)
    - ・2025年度生 出願／入試状況
    - ・2026年度生 オープンキャンパス・募集状況
    - ・Open Gate Niigata 予選会、本選について
2. 質疑応答

### 5. 議 事 結 果：

#### 【報告】

1. 2025年度 教育課程に関する報告と質疑応答
  - 1) 教育課程
    - ・ 2026年度カリキュラム・授業関連検討事項  
資料2、3に基づき、事業創造学部の目的・人物像、および3ポリシーについて向委員長より説明された。  
資料4に基づき、2026年度の星先生より説明された（質問等はなし）。
      - 「地域企業研究」科目を2026年度から導入。
      - オンデマンド講義の試行を2025年度より開始。
      - 選択科目に最低履修人数を設ける方針で次年度から運用。

- ・ 臨地実務実習状況（2025年度前期）  
資料5、6について、向委員長より説明された。  
継続企業も多く、依然と比較して、対応いただける企業が早く決まるようになった。

## 2) 学生状況（2025年度9月末時点）・・・(15分)

資料7について、阿部学務課長より説明された。

- ・ 2024年度卒業対象50名中、民間就職42名。退学6名（目標値内）、休学3名。
- ・ 2025年度新生74名。9月末時点で退学1名（通信制大学へ転学）。
- ・ 休学1名（創業目的休学者、来年度復学予定）。
- ・ 退学抑止策：健康相談、スクールカウンセラー、教員による定期面談、基礎ゼミによる居場所づくりが奏功している。

（明珍先生）学生委員会方針：「学生ファースト」。教員による前期・後期ごとの個別面談を実施。教員だけでなく、学務課・キャリアセンター、カウンセラー・看護師などとの連携も行っている。

（三ヶ月委員）創業目的の休学をした学生が今回、復学をするということだが、実際に起業しているのか？

（向委員長）1期生の学生になり、すでに起業、卒業生を社員に迎えて事業を軌道に乗せつつある。

（三ヶ月委員）在籍数が徐々に増えてきているが、今後はさらに規模を拡大していく予定なのか、定員内を予定しているのか。

（向委員長）文科省へ届けている定員が80人であることと、現状の授業・実習の状況や、教室のキャパなどを鑑みて80名を上限とする。年々、学生の質が上がってきていると感じており、今後は質を高めて、起業志向の学生などを積極的に入学へつなげていきたい。

（唐木委員）4年生で創業休学→退学になった学生がいるということで、創業休学の難しさも感じた。休学中の学生管理はどうしているのか。

（向委員長）休学をしていると、大学としてのフォローに目が行き届かなくなることが現状であり、大学としての課題と感じている。これまで創業休学をした学生で、大学住所で登記している学生は顔を合わせる機会も多いが、そうではない学生は離れがちになっている。

（阿部学務課長）創業休学の学生については、月1で報告書を出すことを課しているの  
で、状況を随時確認する仕組みにはなっている。

## 3) 就職内々定状況報告（2025年度9月末時点）

資料8について、向委員長より説明された。

- ・ 2024年度卒業生の新潟県内就職率67.4%。
- ・ 実習先への就職率16.7%。

- ・ 2025 年度卒業予定者は 9 月時点で残 4 名が活動中、年内の全員内定を目標。

#### 4) 学生募集状況 (2025 年度 9 月末時点)・・・(20 分)

- ・ 2025 年度生 出願／入試状況
- ・ 2026 年度生 オープンキャンパス・募集状況
- ・ Open Gate Niigata 予選会、本選について

資料 9、10、13 について、向委員長より説明された。

- ・ 2024 年度入学者 50 名 → 2025 年度 73 名と改善。
- ・ 特に指定校推薦前期で 27 名（昨年 9 名）と大幅増。
- ・ Open Gate NIIGATA や高校訪問などの取組が成果となった。
- ・ 第 5 回大学祭（橙華祭）について

資料 11 について、阿部学務課長より説明された。

## 2. 質疑応答・意見交換

### ● 荒井委員：

これからの社会では、ただ学問を学ぶだけでなく、新しい発想・イノベーション力がますます求められていくようになるのだと感じた。このような、社会で生きる授業を行っているというのは素晴らしいことだと感じた。

質問として、いいことも悪いことも含め、卒業生が就職した企業からの大学の評判や意見・課題などはあるか。

→向委員長：就職先企業からのアンケートから、コミュニケーション力の高さや基礎知識・技能の高さ・周囲へ配慮する力を評価されていることが分かった。学生からも臨地実務実習が様々なことが一番身についた経験として回答がある。

### ● 唐木委員：

進路一覧から、実習先へ就職している割合が年々減っている気がするが、これについて大学としてはどのように考えるか。

→向委員長：何割かは実習先企業へ就職してほしいと思っはいるが、適切な水準というのを明確に回答するのは難しい。実習先企業は中小企業が多いこともあり、大学としてはもう少し高い割合でもよいと思うが、学生の希望もあるのでこちらの希望を押し付けることも難しい。今後の推移を見ていきたい。

最低履修人数の制限を設けたときに、受講できなかった学生はどうなるのか。

事創大ではディスカッションを行うため、8 名以下の場合、非開講となることがあるが別時間での受講が可能になっている。

→星先生：次年に履修をすることへ送ることや、少人数制大学だからこそ、学務課職員を含めて学生の個別要望も吸い上げながら教員と調整を進めていくことも考えている。

「地域企業研究」の科目はとても良いと思う。社会的にも関心を集めるものだと思うので、ぜひ進めて頂きたいと思う。

→向委員長：承知した

●早川委員：

大学でもカウンセラーを導入するなど、細かい学生ケアしているということに驚いた。社会人になってからも今は会社が様々なフォローアップをしていく時代なので、大学からのケアがあれば、そのような流れは学生にとっては違和感なく受け入れるものなのだと感じた。就職してからはコミュニケーションは絶対に必要になることなので、そのような教育がされているんだと感じた。実習の受け入れもしているが、いい意味でフレンドリーに学生がコミュニケーションを取ってくれるので、それも学校の教育がうまくいっているからなのだと感じた。

●三ヶ月委員：

オープンキャンパスの実績などをみると、これまでの積み重ねがあると感じる。質問として、実習先へも新卒で就職をしているという話があったが、就職活動は学生からの希望で進めていくのか、もしくは、大学からの動きがあってそのようなになっているのかを聞きたい。

→向委員長：1月に学内での合同企業説明会の実施している。その他は随時、キャリアセンターや実習担当教員との個別面談などでフォローをしている。

→明珍先生：実習を経て就職を希望する学生もいるが、そうでない学生もいる。統計を取ってはいないが、教員としても実習先へ就職をして欲しいという気持ちもある。

実習受け入れ企業として、数年間参加させて頂いて感じているところが、受け入れる企業側の準備や体制（資料の準備や説明会への参加時間の調整など）整っていない企業があることをみて、残念に感じている。学生も期待をして真剣に取り組もうとしているので、受け入れる側も、忙しい中での対応となることは重々承知はしているが、準備をして受け入れる必要があるのではないかと感じている。

→向委員長：お忙しい中でご対応頂いているので、なかなかご負担をお掛けするのは難しいが、企業様が資料等作成していなくても、担当教員が情報をフォローしたり工夫している。

●武田委員：

（授業を持っている関係上）次年度のカリキュラムにおいて、「最低履修人数設定」を設けて頂くというお話を聞いて、感謝している。今年度担当した授業において、グループワークを実施することが難しい状況があり、検討頂けて良かったと感じている。難しい部分もあると思うが、少しずつそのような文化が生まれてくると良いと思う。

また、Open Gate NIIGATA の燕三条ラウンドに関わらせて頂いて、燕三条の企業や三条市・燕市と一緒にできたことで市長も喜んでいらっしやった。その後、そこへ参加した高

校生と市役所の方の交流が生まれ、現在いくつかのプロジェクトが進行している状況がある。そのような意味でも素晴らしい機会を頂けたと感じている。一方で課題となっているのが高校生の参加数が少なかったことなので、来年度は早い段階からスタートをして高校生の参加を促進していきたいと思う。

→向委員長:Open Gate NIIGATA 燕三条ラウンドの開催を支援いただき感謝している。

●田中委員:

何点か質問があります。

- ① 学生の質がだんだん上がってきたというのは、起業家志望の学生が増えてきたという解釈なのか。
- ② 会社の登記を大学の住所でできるということは、そこに事務所があるということになるのか、大学内で創業ができるということであれば大学のコマーシャルにもなるのではないかと感じた。
- ③ 創業休学制度があるということだが、起業をしてどんどん忙しくなるとちゃんと卒業することが難しくなりそうだが、どのようなシステムになっているのか。

→向委員長:

- ① 学生の質は、授業の中でしっかりした質問をする学生が増えてきたと感じている。例えば、1年生の授業で、将来の起業を見据えた質問をしている学生もいる。
- ② 大学で登記ができるだけでなく、簡易的なオフィスとして使えるスペースがあり、無料で利用できる。同じスペースで「起業家道場」として教員と1対1でメンタリングが行われていたり、すでに起業している学生も隣で活動しているという場になるため、活動を活性化に貢献していると思う。
- ③ 創業休学中は授業料を免除しているので、経済的負担を減らすようにしている。自身の事業をまとめることで、「事業計画策定総合実習」に応用して単位取得につなげることも可能としている。

数値目標は作ってはいないが、起業を目指す学生を増やしていく、また創業を促すことは大学にとって重要な課題と認識している。

### 3.その他

●情報学部キャンパス移転について（向委員長）

2026年度より、情報学部のキャンパスが米山から紫竹山へ移転することとなった。

授業も合同科目を増やしていく予定であり、学生の学部間交流を促して期待と考えている。

## 5. 資料

【資料1】教育課程連携協議会 構成員名簿

【資料2】教育課程 ポリシー等

【資料3】カリキュラム表 教育課程表

【資料4】2026年度カリキュラム・授業関連検討事項

- 【資料 5】 2025 年度 実習別受入先企業
- 【資料 6】 臨地実務実習 実習先一覧
- 【資料 7】 2025 年前期 学生状況表
- 【資料 8】 2025 年卒進路一覧、2026 年卒内定状況
- 【資料 9】 2025 年度入学生 出願／入学状況
- 【資料 10】 2026 年度入学生 オープンキャンパス・募集状況
- 【資料 11】 2025 年度大学祭報告
- 【資料 12】 2025 年度保護者会報告
- 【資料 13】 Open Gate Niigata2025 予選報告

以上